

第1回 大阪市下水道カーボンニュートラル基本方針(仮)に関する検討会 会議録

1. 開催日時 令和6年11月25日(月) 10:00~12:00
2. 開催場所 大阪市建設局 第1階会議室(ATC6階)
3. 出席者【有識者】 京都大学大学院 教授 藤原 拓(座長)
大阪大学大学院 准教授 井上 大介
弁護士 塩田 千恵子
【事務局】 建設局 下水道資源循環課担当部長
下水道部 事業計画担当課長、設備課長、下水道資源循環課長、
下水道資源循環課 担当係長、係員
4. 議題 (1) 下水道事業における温室効果ガス排出量の削減対策について
(2) 目標達成に向けた技術導入並びに技術開発における産官学連携について
(3) 地域の資源循環における下水道事業による貢献について
(4) その他

5. 議事要旨(主な意見)

議題について、次のような意見をいただいた。

- (1) 下水道事業における温室効果ガス排出量の削減対策について
 - ・水処理施設等での N_2O 排出量の実態把握は重要である。(井上委員)
 - ・カーボンニュートラルの取組みによって、下水道事業自体の持続性の確保にその他の部分でネガティブな影響を及ぼさないことを確認していることを、対策事例の箇所に記載することを提案する。(藤原委員)
 - ・水処理にも革新的な技術の導入余地があることが分かるような記載を提案する。(藤原委員)
 - ・カーボンニュートラルについて説得力を出していくためにも、基本方針策定後、具体的なロードマップを作成していくことが重要である。(藤原委員)
 - ・カーボンニュートラルは誰もが努力する必要がある取組であり、電力会社などと下水道の各々が役割を担う部分をきちんと分けて記載した方が、適切に説明できると考える。(藤原委員)
- (2) 目標達成に向けた技術導入並びに技術開発における産官学連携について
 - ・早期に導入できる確立された技術と今後の進展が待たれる技術の区別があれば分かりやすい。(塩田委員)
 - ・導入可能時期のようなものを記載すると良いと考える。今後の具体的なロードマップにも繋がっていく。(藤原委員)

- ・将来的な人口減少も見据え時間軸も考慮しながら、水質とエネルギーのバランスを全体として最適化していく動きは重要と考える。(藤原委員)
- ・技術開発において、大阪市がうまくシーズを育成する仕組みを検討し、先導できると非常に素晴らしいと考える。(藤原委員)
- ・技術開発の対象としては、省エネ・創エネ・温暖化ガス排出対策の枠に含まれない新しい視点での技術も想定されることを提案する。(井上委員)

(3) 地域の資源循環における下水道事業による貢献について

- ・中浜西下水処理場再構築などでの地域との資源循環の取組みについては、近い将来実施できる取組とより長期的な目線で実施する取組など時間軸の記載があると分かりやすい。(塩田委員)
- ・カーボンニュートラルや資源循環の取組は、これまでマイナスの存在である下水を環境に迷惑かけないようにゼロに近づけるための努力をしてきた下水道が、地域にとって価値をもたらすような地域の拠点に変わっていく、マイナスをプラスに変えていく未来の下水道への具体的な取り組みであると思う。そのプラスになったという評価をする主体である市民の方へ、このカーボンニュートラルと地域への貢献をいかに見える化しアピールしていくかということも、重要であるとする。(藤原委員)

(4) その他

- ・省エネルギーや創エネルギーは、費用削減と温室効果ガス排出量削減で WIN-WIN の関係であったが、下水道事業から直接排出される N_2O の対策についてはそのようにはならず、コスト増になる可能性がある。そのコストをどのように負担していくのかという点も今後重要な議論となってくる。(藤原委員)

以上